こうして親切な「餃○の王将」の店長のおかげで、経資協は預金封鎖の危機を脱したのである。もしあそこで公印を紛失していたら…。今思い出しても背中が寒くなる。最後なので皆様に告白しておく。

経済資料協議会の思い出

長谷川　伸　三
（前大阪樟蔭女子大学教授・茨城大学名誉教授）

私は1972年6月から1991年3月まで小樽商科大学に勤め、助教授ついで教授として日本経済史を担当した。同時にその大部分の期間、同大学経済研究所員を兼ね、主に資料部を担当した。同研究所は研究施設でもなく、専任は助手1人、前半は上原香江子さん、後半は今野茂代さんだった。同研究所は経済資料協議会に加盟していたので、日常的には『経済学文献季報』の文献カード作成の点検を担当した。文学部出身の私は、経済学（特に近代経済学）・経営学・統計学等には詳しくなく、カードの点検のなかでも分類に苦労した。

毎年の経済資料協議会総会にはほぼ出席することができた。各地の大学や機関を訪問し、多くの方々と知り合いになれた。なかでも同僚の松田芳郎氏の紹介もあって、一橋大学の細谷新治氏と知り合えた。氏は当時一橋大学日本経済統計文献センターで、『明治前期日本経済統計解題書誌：富国強兵篇』（全5冊、1974～80年）のシリーズを作成し、刊行しており、そのバックナンバーを含めて頂きたいとお願いしたが、初期に刊行した分は在庫がなかった。このシリーズは手元にあり、資料文献目録とその解題はかくあらねばならないと思っている。

私は1988年3月下旬から1989年8月中旬まで、文部省在外研究員として（後半は私費）ロンドン大学アジア・アフリカ研究学部

(SOAS)へ行き、家族とともに1年5カ月をロンドンで過ごした。この間、同学部で日本の古典籍に関する研究会が開催された。これに細谷氏が参加された。大会中、細谷氏を同学部の図書館に案内した。この図書館の日本語図書は充実していて、日本の地方大学の図書館以上といわれている。ついつい時間をすごしてしまい、研究会の会場に戻ったところ、聞きたかったY氏のホーレー文庫に関する報告は終わっていたことがあった。

経済資料協議会の解散に想う

程　島　俊　介
(元中央大学)

中央大学経済研究所は1978年5月の名古屋学院大学における総会において加盟を認められてから今日まで30年のお付き合いとなりますが、私個人は、78年から94年までの16年間お世話になりました。その間、「経済学文献季報」のロシヤ語採録、「経済資料研究」の編集や協議会の運営のお手伝いをさせていただきました。

その経済資料協議会が2008年10月に解散と聞き、ショックでもあり、残念でもあり、時代の転換をあらためて想う次第です。とりわけ、「経済資料協議会50年史」を読み返してみると、1951年に生まれてから今日までの経済資料協議会は、日本の経済学会およびドキュメンテーション界における人材の宝庫であり、中枢としての機能を果たしてきたことを改めて確認するとともに、分厚い生きた経済学辞典でもありました。

そのことを鑑みると、自分の果たしてきた役割の何とちっぽけなことであったか、忸怩たる思いでありますが、一方、経済資料協議会の輝かしい歴史の1ページに携わることができたことは大変光栄でもあ